

議長定例記者会見の概要 (9月定例会)

日 時：令和3年10月11日(月)
11時13分～11時30分

場 所：議長応接室



【議長発言】

(中野議長)

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

今議会は長丁場で36日間という会期でしたが、無事終了いたしました。提案された議案は、今日の議案を含めて全て認められました。

代表質問・一般質問がありまして、それぞれ活発な議論が展開されました。また、今回は決算審議がありましたが、今日認定をしました。健全な財政運営を行うよう求めているところでございます。

また、ちょうど会期中に、台風14号の影響により、宮崎市内海で土砂災害が発生しました。道路は今なお不通になっておりますけれども、被害にあわれた方にお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復旧を願っております。

コロナ感染については、大変心配されましたが、一応第5波が落ち着いたということでもあります。今後第6波が発生しないように、と思っているところでございます。

なお特筆すべきこととして、会期中に、3名の同僚議員が辞職をされました。調べた

わけではないのですが、定例会中に3名が辞職するというのは希なことだろうと思います。それぞれの選ばれた道で頑張っていたいただきたいと思います。また、近く行われる補欠選挙で、新しい同僚議員が仲間入りをしてくれると思います。

以上、挨拶といたします。

【質疑応答】

(宮崎日日新聞)

3名辞職されて、議会の運営や進行等に支障等はなかったでしょうか。

(中野議長)

スムーズにいったと理解をしております。

(宮崎日日新聞)

女性議員4名中、2名が辞職されました。議会に多様性が求められる状況の中で、2名が辞められたことをどう受け止めているのでしょうか。

(中野議長)

女性議員を増やすことは、全国的な課題であり、我々県議会の課題でもあります。

近くある県議会議員の補欠選挙については、名乗りを上げられた方もいますので、誰が、とここで言うわけにはいきませんし、どうなるかわかりません。1年半後の統一地方選挙において、女性の方がたくさん手を挙げていただければな、とは思っております。

(濱砂副議長)

今回の補欠選挙でも、立候補を表明している女性の方が1人いると聞いております。最終的には県民が選ぶこととなりますが、積極的に参加してくれる女性が現れることを期待しております。

統一地方選挙になれば、県民の皆さんが、今のニーズに合った人を選ぶことになるでしょうから、しっかりと政治に関心を持っていただき、選んでいただきたいと思っています。

(宮崎日日新聞)

定例会中、岸田内閣が発足しました。所信表明で、地方の発展、地方田園都市構想といったこともおっしゃってました。就任に対して議長の受け止めに伺います。

(中野議長)

岸田総理は、特技は話を聞くことだ、といったようなことを言われておりますから、地方の声も大いに聞いていただきたい。中国地方に選挙基盤がありますから、そういう気持ちもあると思いますし、実際、政策や予算執行の中でも、地方を重視されるでしょう。特に、経済政策を中心にした内閣だと伺っていますから、経済政策も地方重点になってほしいと思っています。総裁選挙の中でもそういったことを言われていたので、大変期待をしているところです。

(濱砂副議長)

岸田総理が「成長と分配」と言われていましたが、池田内閣の頃の所得倍増計画を思い出しました。地方においてはやはり投資が必要で、そして中央から全体に分配していくというのは経済の流れですから、当然、期待をしたいと思っております。

(UMK)

先ほどの質問とちょっと重なりますが、今回3名の議員が辞職されて、昨年度の日南市長の件を含めると現在定数から4名減っている状態です。そのような中、先ほど、議会の進行はスムーズだったという発言もありましたが、議員39名という定数の役割・意義は、議長としてはどのように感じてますでしょうか。

(中野議長)

議員が40名いれば、5つの常任委員会に各8名ずつということになりますが、実際は39名で、常任委員会のうち文教警察企業常任委員会の定数が7名になっています。それに加えて今回4名欠員となっている状態です。議員が減ったからといって、審議において熟度が足りなかったということにならないように、残った議員が、欠員分もフォローして審議をしてもらいたいと思っています。

人口100万人以上の都道府県で、定数40名未満の議会は、全国で宮崎県だけで、そういう意味ではもともと議員数が少ない状態にありました。もちろん、人口が宮崎県の倍だからといって、議員定数が倍になるわけではないので、議員1人当たりの人口はそういった人口の多い都道府県のほうが多いわけです。もともと議員数が少ない宮崎県で、欠員でさらに少なくなっていますが、議員1人当たりの人口という点では、人口の多い都道府県と遜色のないところだろうと思います。11月定例会は、補欠選挙で2名戻った状態になりますので、新しいメンバーと一緒に議会運営をしていきたいと思っております。

(UMK)

見方を変えると、議員が4名減っている状態で運営できるのであれば、いっそのこと定数を減らしてもいいんじゃないか、といった見方もできる気もするのですが、議長としては今おっしゃるように、39名という定数が望ましいと思われているのでしょうか。

(中野議長)

平成の大合併のときに、地方の市町村議会議員が合併で減っていくことが想定される中、県議会はそのままでいいのか、という話が県内の各方面からあって、議会で特別委員会をつくって2年続けて審議しまして、もともと45名いた議員が、6名減って39名になりました。結果、さっき言ったとおり、人口100万人以上の都道府県の中で、議員定数が40名未満なのは宮崎県だけとなり、現在もそうです。当時は他県の協議状況を知りませんでしたが、定数減の後の統一地方選挙を見たら、6名も減らしたのは宮崎県だけでした。他県では、全く定数を減らさないか、減らしても1名か2名で、ほとんど定数削減はされませんでした。

4名減った中で議会運営がうまくいくのであれば削減できるのではないかと、というような御質問でありましたが、みんなが知恵を出して、時間をかけて、難儀してこの減った分をフォローしてるわけですから、39名は最低でもやっぱり維持すべきだと思います。二元代表制の中で、執行部のチェック機能を十分果たすためには、ある程度の議員数は確保しないとイケません。また、県の監査委員4名中の2名は県議会議員となっておりますし、そのほかのチェックすべきこと等も含めれば、39名というのは、しばらくは守るべき人数だと思っております。4名減っているのは仕方のないことですが、早く元に戻ればと思います。

(濱砂副議長)

議会の運営ができるかどうかと、県民の声を反映できるかはちょっと違うと思っております。議案等の審査については、ある程度ベテラン議員もおりますから審議は十分できると思っておりますが、ただ、今議長から話がありましたように、県民の代表として何名あるべきかということになれば、私も39名は最低限必要だと思います。定数を削減したとき、私はもともとこの39名案に反対で――常任委員会5つに各8名で計40名ですから、それ以上の、42～43名程度は必要だと思っておりました。

今度国勢調査の確定値が12月頃に出ますので、39名という数字が法令に違反するようであれば、全体の定数や、各選挙区の定数も考える必要があります。ですが、今のところ、宮崎県は先ほど議長が言われたように全国的に見ても定数が多い方ではないので、やはり39名は最低限必要だと私は思います。